

# やすらぎ

6月号/No. 351

平成23年6月1日発行

富山赤十字病院

TEL(076)433-2222

発行責任者 粟林弘明

編集責任者 桑間直志

## 褥瘡について

皮膚科 東 晃

褥瘡とは一般にいう床ずれのことです。皮膚の表面には毛細血管が走っていて、その血流によって皮膚には酸素や栄養が与えられています。体の一部に持続的に圧力がかかると、表面を走る毛細血管が圧迫され、皮膚への血流が乏しくなり、その部分の皮膚が低酸素、栄養障害により死んでしまうこととなります。この状態を虚血性壊死といいます。このように、体の一定の場所に、一定時間以上、一定以上の圧力が加わって皮膚が虚血性壊死に陥ったのが褥瘡です。

健康な人は寝ているときでも、体の一部に持続的に圧力がかかり続けると虚血により知覚神経が刺激され痛みを感じ、知らず知らずのうちに寝返りをうち、褥瘡は予防されています。寝返りをうてない状態としては、意識障害（脳梗

塞、脳出血、急性アルコール中毒、低血糖など）、長期間の寝たきり状態、全身麻酔の術後、関節拘縮で寝返りが制限されている状態などがあります。また、脊髄損傷や脳梗塞後などの知覚麻痺では痛みを感じないので寝返りを打たない状態となります。その結果褥瘡ができることとなります。褥瘡は体重のかかる骨の突出している部位で、脂肪や筋肉の薄いところによく発生します。一番起きやすいところは、腰の部分（仙骨部や大転子部）、ついでかかと、肩甲骨や背骨などの部位です。また、加齢により皮膚がうすくなっていたり、栄養状態が悪かったり、汗や便や尿で常時湿潤していたり、糖尿病などの持病により、感染に対する抵抗力が落ちていることも、褥瘡が発生する誘因になります。



### 理念

人道・博愛の赤十字精神にもとづく良質で安全な医療の提供

### 基本方針

- 1 患者さん中心の医療を提供します
- 2 より高度な医療の実践を目指します
- 3 地域医療に貢献する病院を目指します
- 4 災害救護ならびに医療社会奉仕に努めます
- 5 次代を担う医療従事者を育成します
- 6 働きがいのある病院運営に努めます
- 7 健全経営の維持に努めます

富山赤十字病院



### 患者さんの権利

病院の「理念」・「基本方針」にもとづき患者さんが安心して医療を受けることができるよう、以下の権利を大切にします。

- 1 個人の尊厳が守られる権利
- 2 プライバシーが保障される権利
- 3 適切な情報と説明を受ける権利
- 4 自ら医療行為を選択する権利
- 5 適切で最善の医療を受ける権利

富山赤十字病院

褥瘡のできはじめには、持続的圧迫により皮膚が赤くなります。うすく水ぶくれができることもあります。水疱が破けてびらんになり乾いて治ってしまうこともあります。水疱を作らず、どんどん皮膚の色調が悪くなり、紫色から黒っぽい壊死に至ります。そのうち皮膚の壊死部の周りが炎症をおこし赤くはれてきます。さらに感染をおこして、膿がたまったり、発熱することもあります。やがて、壊死部が脱落すると筋肉や骨にまで達する深い潰瘍となります。

褥瘡の初期には皮膚を保護し、自分の治癒力で皮膚の再生を促す目的で、透明なフィルムを貼ります。褥瘡が慢性化し、壊死が皮膚の深くに達したときは、壊死組織を溶かす作用のある外用剤を使用したり、メスなどで直接取り除きます。壊死組織が除去され、感染の徴候がない潰瘍の状態になれば創傷被覆材なども使用します。

褥瘡を発生させないためにはあらかじめ骨の突出部にかかる圧力を分散させることが重要です。体圧を分散させる寝具（エアマットレス、ウレタンフォームマットレスなど）を積極的に利用しましょう。また2、3時間ごとに体位を

変えてあげます。日中座りっぱなしの患者さんの場合は、15分ごとにおしりを持ち上げるようにします。さらに全身および局所を清潔に保つことも重要なポイントです。局所の連日の洗浄や尿失禁や便失禁に対するケアは褥瘡の予防上とても重要です。栄養状態も大事なポイントです。同量のカロリーやたんぱく質を摂る場合でも点滴などよりも口から食物で摂るほうが褥瘡はできにくくなります。褥瘡が発生してしまっても、局所療法と平行して予防に努めます。褥瘡の予防と治療は家族だけで背負わずに医療や介護に関わる人々と相談して、協力しあって進めていきましょう。介護保険などの対象者では公的サービスにより必要な用具の購入補助やアドバイスを受けることもお勧めします。



## がん相談支援センターからのお知らせ

がん相談支援センター 相談員 多賀 明子  
駒見 恵子

今回は、国立がん研究センターがん対策情報センターが発行している、「患者必携 患者さんのしおり」についてご紹介します。このしおりは、患者さんとご家族が、がんと言われたときのつらさや不安を和らげたり、心や体の負担を少しでも軽くできることを願って、「あわてない、困らない、迷わないために知っておきたい5つのポイント」をまとめたものです。しおりの中には患者さんの手記が紹介されています。同じような思いをもって闘病されている方もおられるのではないのでしょうか。

2階やすらぎホール「がんに関する情報コーナー」には、このしおりをはじめ、各種がんに関する冊子も配置しておりますのでご活用ください。



このコーナーでは、「皆さまの声」(ご意見箱)等からお寄せいただいた  
ご意見、ご要望に対する当院の対応についてお知らせします

(ご意見・ご要望)

食事の味がうすすぎる。うすいならせめてダシをきかせるとか、おいしく食べられる工夫をしてほしい。

メニューが3Week毎に全く同じなのでは?長期入院の身にはつらい。

「病院からのお答え」

「2011年版厚生労働省の日本人の食事摂取基準による食塩摂取量の目標量は、男性9.0g/日未満、女性7.5g/日未満となっています。当院は、この数値にしたがって献立の見直しを図りました。減塩に際して、旬の食材の選定、だしを取る、香辛料・酸味の利用等の工夫をしています。

当院は急性期病院として厚生労働省の方針に基づき患者さんが早期に回復されて退院していただけるよう、入院期間の短縮に努めています。したがって、献立は短期入院を基準に21日サイクルメニューで提供しております。その中で、春夏秋冬の旬の食材を取り入れたり、毎月行事食を作って提供しています。また、ベッドサイドでの患者さんの声をお聞きして献立に取り入れています」 栄養課

(ご意見・ご要望)

空調は快適で満足しています。

受診科目の待合室で番号と受診室の案内がアナウンスされますが、1回きりでは聞き逃しそうになるので、最低2回繰り返してもらえる方がいいのかな?と思います。

診察が終わった後、「受診科目受付の前で待つ」ことがわかりませんでした。受付の人に問い合わせたら、対処して頂いたので感謝します。

「病院からのお答え」

「診療科の呼び出しについてのご意見ありがとうございます。診療科の呼び出しにかんしては医師によりアナウンスを行い診察室に入っていたく科が多いですが、1度及び2度のアナウンスにて診察にお入りにならない場合は看護師が待合

室にて番号並びにお名前を呼んで診察室に入っているか確認しています。尚、一部の診療科では看護師が患者さんを呼ぶこともありますが、各科において状況の判断を行い臨機応変に呼び出しを行っています。今後も対応に不足な点があればご指摘下さい」 看護部(外来)

外来看護師の方でも対応を強化します。

(ご意見・ご要望)

病院の診察中や母親教室中など、子供をみてもらえるところが、病院内にあれば助かります。総合病院も利用しやすくなると思います。病院で働いておられる職員の方も、子供を預けるところがあると、安心して働けると思います。検討をよろしく願います。

「病院からのお答え」

「病院内には、必要なスペースやスタッフがいないことから、ご指摘のとおり、お子さんを預かるところがなく、ご不便をおかけし申し訳ありません。

また、職員の子供を預かる院内保育所は、女性の働きやすい職場づくりの一環として、設置に向けて検討しています。」 総務課

職員のニーズは高いと思われますので、現在前向きに検討中です。

(ご意見・ご要望)

計算機のとなりにシュレッダーか、中が見えないゴミ箱があれば良いと思う。受付票がいつも捨てる場所に困る。

「病院からのお答え」

「不用となった受付票ですが、個人情報に関わるものですので、中の見えないゴミ箱でも回収した際には分別をして漏洩を防ぐ処理が必要となります。シュレッダーは子供の事故が危惧されるため設置は避けたいです。できればご自宅へお持ち帰り下さいますようお願いいたします」 医事サービス課

## 東日本大震災への派遣 (救護班)

第13班 5月18日 宮津医師以下 6名

第14班 5月27日 勝田医師以下 6名 / 心のケア 1名

# 6・7月健康教室等のお知らせ

患者さん、ご家族の方、お気軽にご利用ください

【お問い合わせ】電話 (076)433-2222 医療社会事業部(内線2322)

教室・外来	内 容	実施日	時 間	場 所	担 当	申込窓口
糖尿病指導コース	食事療法	毎週火曜	14:00～15:30	3階討議室	栄養士	外来通院の方は 内科外来
	病気・生活の話	毎週水曜	14:00～15:30	3階討議室	医師	
	口腔衛生について(「病気・生活の話」と一所に)	6月15日(水) 7月20日(水)	14:00～14:30	3階討議室	歯科衛生士	
	薬の話	毎週木曜	14:00～14:30	9F-西病棟	薬剤師	
食事指導コース	糖尿病の検査	毎週金曜	14:00～14:30	3階討議室	検査技師	入院中の方は 病棟看護師
	運動の話と実技(運動の実技は主治医の許可を受けてください)	毎週金曜	14:30～15:00	3階リハビリ室	理学療法士	
	昼食会	6月23日(水) 7月28日(水)	11:30～12:30	看護専門学校2階調理室	栄養士	
	腎臓病教室(慢性腎不全の食事療法)	6月15日(水) 7月20日(水)	14:00～15:00	3階講義室	栄養士	
安産教室	1コース ～イメージしよ体の中を！～	おなかの中の赤ちゃん ・妊婦体操	6月3日(金) 7月1日(金)	化学療法棟 1階会議室	医師	産婦人科外来
	2コース ～自分と向き合ってみよう！～	・妊娠中の過ごし方 ・おっぱいの大切さ ・食生活と体重コントロール	6月10日(金) 7月8日(金)			
	3コース 楽しく学ぼう！いいお産	・お産に向けての準備 ・お産のリハーサル ・お産の経過・呼吸法・補助動作)	6月17日(金) 7月15日(金)			
	4コース おっぱいのひ・み・つ	・おっぱい生活のすすめ ・授乳と育児	6月24日(金) 7月22日(金)			
禁煙教室	禁煙についての相談と講義	第1～4金曜	15:00～15:30	病棟説明室	保健師	申込不要
禁煙外来	禁煙についての内服治療を含めた支援	第1金曜	15:30～16:00 1人 16:00～16:30 1人	呼吸器外科外来診察室	医師	地域医療連携室
		第2～5金曜	14:00～14:30 1人 14:30～15:00 1人 15:00～15:30 1人 15:30～16:00 1人			
助産師母乳外来	乳房マッサージ・育児相談・授乳相談	毎週火曜	13:00～15:30	産婦人科外来第3診察室	助産師	7F-西病棟 産婦人科外来
助産師外来	妊娠中、分娩から産後の育児についての相談、アドバイス	毎週月～金曜	13:30～16:00	産婦人科外来第3診察室	助産師	産婦人科外来
看護相談	糖尿病相談(療養上の留意点、自己血糖測定など)	毎週月～金曜	8:30～17:00	2階外来看護指導室	看護師	内科外来
		毎週火曜	10:00～11:00	化学療法棟1階会議室	栄養士	不要
のびのびサークル	母乳育児期間中の母子の集い(ホームページをご覧ください)	第4木曜	10:00～11:30	化学療法棟1階会議室	保健師 助産師	不要
		毎週火曜	13:30～15:00	化学療法棟1階会議室	保健師 助産師 看護師 看護師	7F-西病棟
赤ちゃん健診	当院で生まれた赤ちゃんの発育チェック、赤ちゃん体操、母乳育児相談など	6月16日(水)	14:00～14:30	化学療法棟1階会議室	医師 薬剤師	主治医 看護師
		7月13日(水)	14:00～14:30			
		7月13日(水)	14:30～15:00			
やすらぎの会	三ニレクチャー がん治療と食事について 交流会	6月8日(水)	14:00～15:00	9F-西説明室	9F-西スタッフ	申込不要